

平成 28 年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「安房南部区域」 議事概要

1. 実施日 平成 28 年 7 月 12 日(火) 13:00~14:45
2. 場 所 農林水産省 北別館 7 階 会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
須藤 陽子 株式会社 須藤牧場 専務
橋本 禅 東京大学大学院准教授
(敬称略、五十音順)
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長の選出
浅野委員を選出した。
- (2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について
事務局より説明を受け、質疑を行った。
- (3) 意見・指摘等
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業により整備された農用地や農業用道路は、地理的条件を活かした産地形成と農業生産の安定化、農産物流通の改善に寄与し、地域の活性化に貢献するものと評価できる。

(農業用道路)

農業用道路の沿線はセンリョウや花卉の全国有数の産地であり、本事業により整備された農業用道路は、南房総市及び館山市内の平地部から山間部を通り太平洋沿岸を結び、農産物輸送の大型化・高速化に貢献するものである。

事業の実施前、山間部では非常に狭い隧道が生活道となっていたが、農業用道路が出来たことにより、市内への買い物や通勤、通学など日常生活の利便性の向上に貢献するとともに、地域医療施設へのアクセスが改善したことにより、生活への安心感の向上にも寄与している。

この農業用道路は、観光バスやバイクを使って花摘みやいちご・紅葉狩り、房総

半島南端の観光地を目指す人々の往来を活性化している。

太平洋沿岸には、海岸に沿って基幹的な道路があるが、半島内部を通る農業用道路が出来たことによって、太平洋沿岸と平地部を結ぶ走行ルートが複数化し、津波等災害への備えとして地域の安全・安心の確保に資すると考えられる。

（農用地整備）

狭小で不整形な農地が区画整理されたことにより、機械作業が容易となり、農作業の効率化、営農経費の節減に貢献している。

区画整理団地内の作付けの状況としては、水稻の作付けが多い一方で、いちご等の観光農園の拡大も見られる。

区画が大きくなり、営農がしやすくなった水田では、事業を契機に田植えや稲刈り等の農業体験が行われるようになり、東京都内より数百名規模で高校生等との交流が行われるようになっている。

また、地域農家を中心に農業体験を行う組織が立ち上がり、地域振興を図る人づくりが進み、地域を持続させていくための原動力となっている。

（事業効果のより一層の発現に向けて）

本事業により整備された農業用道路は、地域交通の利便性の向上に寄与している。季節に応じた観光・農業体験プログラムの立案、農産物の加工品の販売を含む直売所等の魅力の向上、都市近郊としての立地を活かした積極的な情報発信を行うことにより、観光客の増加と本区域の農産物の消費拡大を図ることが期待される。

また、農家の高齢化や後継者不足が懸念される一方、気候の温暖な太平洋沿岸部では定年帰農者も見られる。今後の地域農業の振興のあり方として、後継者の育成とともに、高齢者の活躍の場づくりや、高齢者の健康づくりとしての農業についても視野に入れておくことが望まれる。

（以上）